

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月 16日現在

機関番号：13101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2011

課題番号：22656131

研究課題名（和文）伝統文化継承装置としての花街建築および景観の特性と計画論的課題

研究課題名（英文）Buildings, Townscape and Planning of Kagai as a device for Conservation of Traditional Culture

研究代表者

岡崎 篤行（OKAZAKI ATSUYUKI）

新潟大学・自然科学系・准教授

研究者番号：10281247

研究成果の概要（和文）：

東京、京都、新潟を主な対象として、(1)花街の形成過程、(2)花街建築の特性、(3)花街建築の残存状況及び景観特性、(4)花街の景観保全・住環境保全に係る計画的課題、(5)市民活動による花街の維持活性化方策について、明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

We clarified the following topics about the traditional entertainment districts called "Kagai" through the analysis of Tokyo, Kyoto and Niigata.

(1)the development process of Kagai

(2)the feature of the buildings for traditional entertainment business

(3)the present condition of historic buildings and the feature of townscape in Kagai

(4)the problems about the conservation of townscape and residential circumstance in Kagai

(5)the method of conservation and revitalization of Kagai by NPO

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	0	1,800,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,000,000	360,000	3,360,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、都市計画・建築計画

キーワード：景観・環境計画、建築史

1. 研究開始当初の背景

芸妓主体の花街と娼妓主体の遊廓は近代に分離された。遊廓に関する研究は多く、その一部で花街を取上げている場合はあるが、花街を主体にした研究は少ない。歴史地理学分野では一定の蓄積があるほか、都市・建築分野では個々の建築を中心に花街を扱ったものがある。京都や金沢で町並み調査がされ

ているが、これも花街という視点からの調査ではない。このように、複数の花街の建築や景観に関して横断的に比較を行った研究はされていない。

2. 研究の目的

東京、京都、新潟を対象として、花街建築及び景観の特性を明らかにする。さらに景観

保全、住環境保全のための計画論的課題を明らかにし、実現手法としての市民活動も含めた保全方策を提案する。

3. 研究の方法

分析項目としては、建築史・都市形成史の視点から(1)花街の形成過程を把握した上で、建築史・建築計画の視点から(2)花街建築の特性を明らかにする。さらに、都市計画・都市デザインの視点から(3)花街建築の残存状況及び景観特性を明らかにし、これをふまえて(4)花街の景観保全・住環境保全に係る計画的課題を抽出する。最後に、実現手法まで踏み込み、NPO論の視点から(5)市民活動による花街の維持活性化方策について論じる。

事例については全国的研究の端緒として、東西の主要都市である東京、京都のほか、地方都市の代表として新潟を対象とする。

4. 研究成果

(1) 花街の形成過程

京都最古の花街と言われる上七軒花街について、史料を収集・分析し、その形成過程を把握した(図1・図2)。

新潟古町については、絵図や明治期・昭和初期の地籍図から、背割線に通された新道の形成過程を検討するとともに、敷地の細分化過程を把握して、路地と花街建築との関係を考察した。

東京神楽坂については、古文書、古地図などから、花街空間の変容を追った。

(2) 花街建築の特性

京都上七軒において現存している茶屋建築遺構(旧森留、旧杉浦)の実測調査を行い、茶屋建築の変容をもとに、花街の形成過程、景観の史的変遷を考察した。

新潟古町において、料亭及び茶屋建築の実測調査を行い、路地空間も含めた花街建築の構成と花街建築の歴史的・建築的特徴について、周辺の主要な町家(妻入)と比較しつつ明らかにした(図3)。その結果、古町の花街建築は妻入で、路地空間と深い関係を持ち、路地を前提とした家屋構成を持っていることが確認できた。

また、花街構成要素でもある町家建築について、文化財調査報告書等から、1世紀で1尺ほど軒高が高くなる傾向にあることを統計的に実証した。

(3) 花街建築の残存状況及び景観特性

神楽坂では花街および周辺地域において、築50年以上が経過している歴史的建造物を推定し、その中でまちづくりにおいて重要と判断できる建造物の外観特性を把握した。さらに、これを「戦前の神楽坂花街の建築の外観」および「現在の一般建築の外観」と比較することで、戦前の花街建築の意匠が、現在

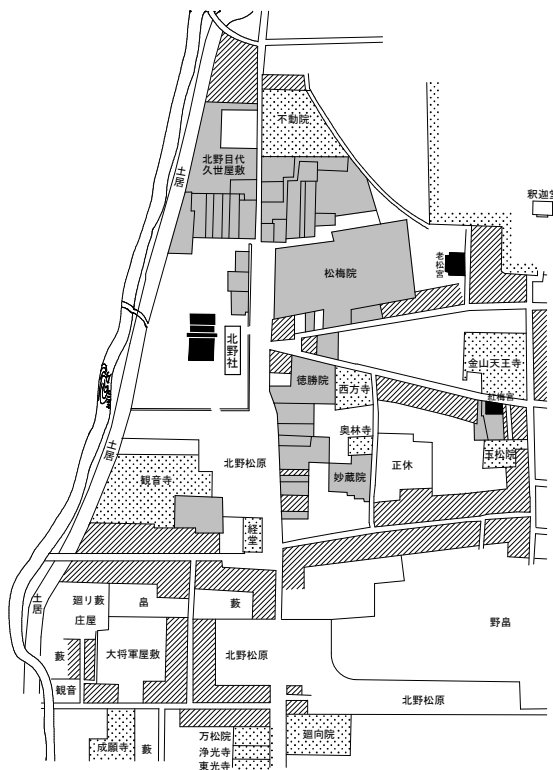


図1 『寛永十四年洛中絵図』(1637)

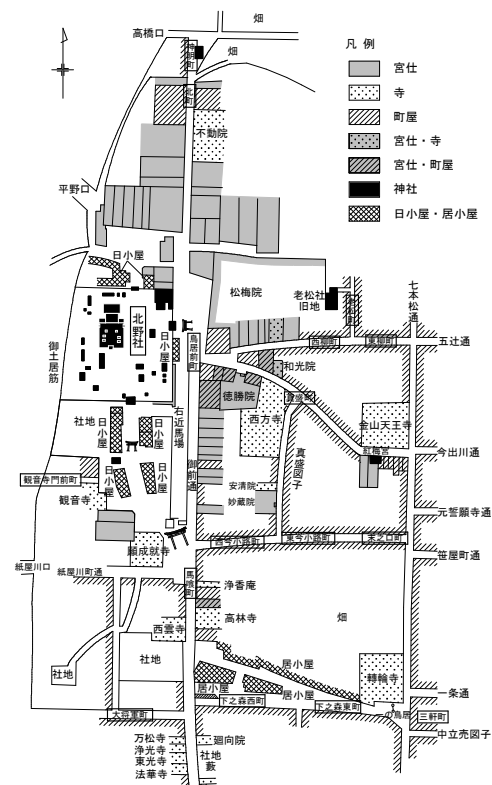


図2 『北野社内社外境内之絵面』(明治初期)

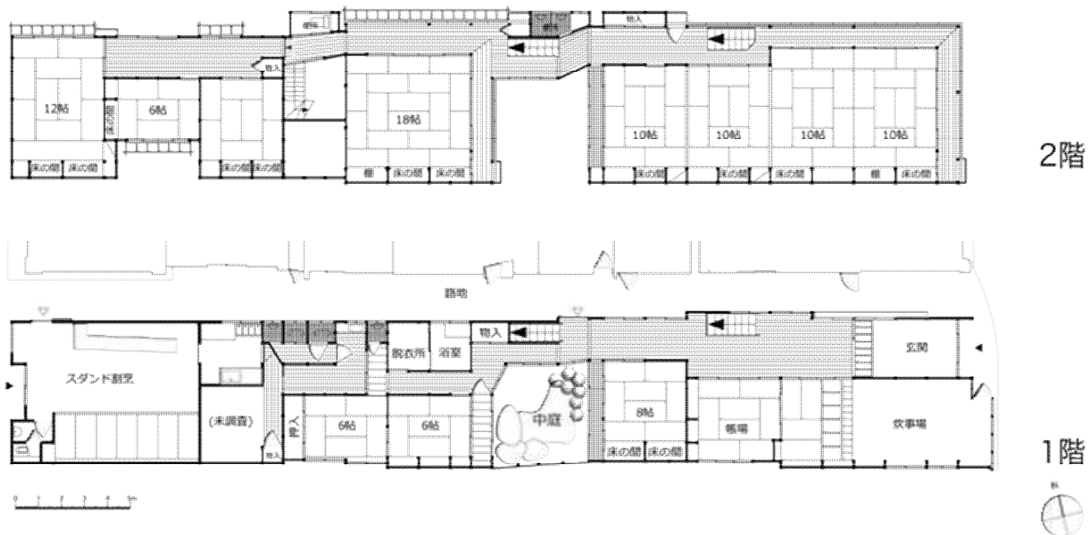


図3 新潟古町 料亭有明の構成

の花街建築や一般建築へと受け継がれている実態を明らかにした(図4)。また、2棟の実測調査を実施し、登録文化財に申請中である。同時に戦後の神楽坂花街の様子を知るために、住民に対するオーラルヒストリー調査を実施した。

(4) 花街の景観保全・住環境保全に係る計画課題

京都の五花街において、昭和31年以降の各花街の建築物の用途の変遷を明らかにした。茶屋および茶屋関連施設は各花街の中でもともと商業地区よりも住宅地の近くに立地していたこと、高度成長期に商業地区化した花街が多いこと等がわかった。また、戦後街区の変化(路地の減少)が特に大きい上七軒について、その理由を明らかにした。そのうえで、今後の上七軒のまちづくりについて、居住者・店舗等経営者・お茶屋経営者の意識を、3者へのアンケートを元に分析した(図5)。

新潟古町では、昭和初期と現在の建物用途を比較し、三業のなかでも茶屋と置屋が激減するなかで、飲食店やスナック・バーなどに転用されてきたことを明らかにした。

また、京都祇園、東京神楽坂、新潟古町、金沢ひがしにおける花街景観保全の取り組み経緯を整理し、比較しつつプロセスを一般化した(図6)。

(5) 市民活動による花街の維持活性化

全国的に衰退傾向にある花柳界の中で、新しい試みに取り組んでいる東京神楽坂地区と新潟古町地区について、その実態を調査した。神楽坂では、景観保全などに取り組む(特活)粋なまちづくり倶楽部に加え、花柳界と連携し、PRやイベント等を企画していく事業



図4 神楽坂の歴史的建造物と景観

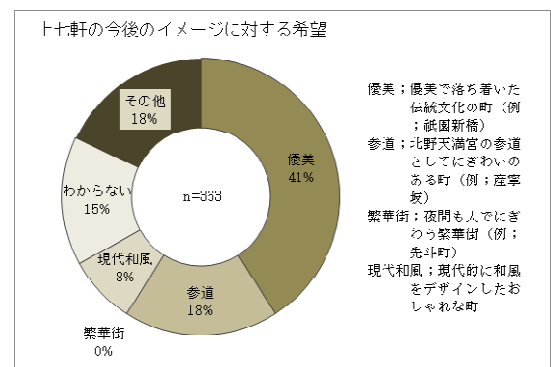


図5 京都上七軒で望まれるイメージ

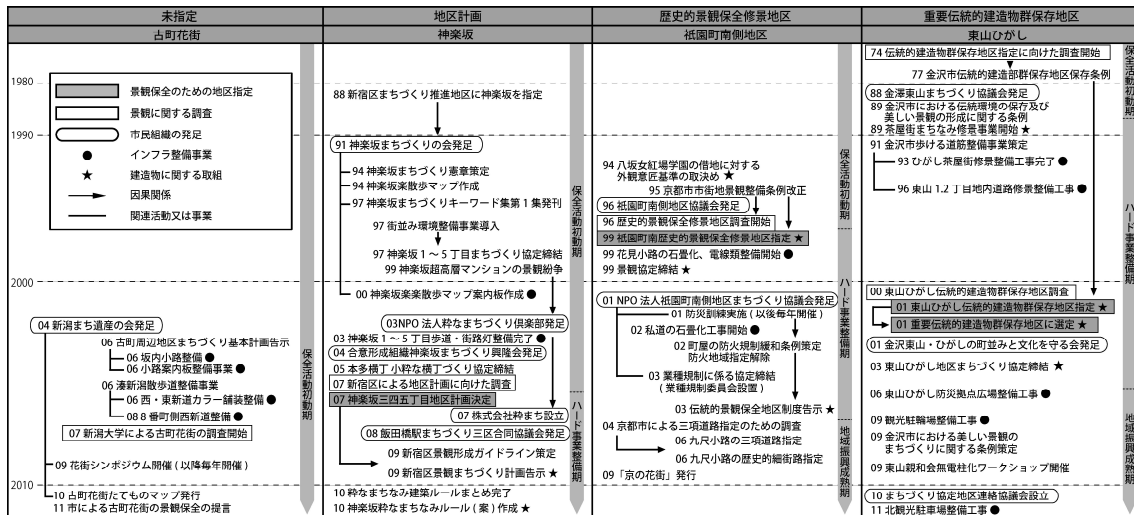


図6 景観保全のプロセス

組織(株)粋まちが積極的に事業展開をしている。

新潟古町では、1987年に柳都振興が設立され、若手芸妓の育成と観光振興に取り組んできた。これまでに約40名が入社したが、結婚退職、進学、家業継承など様々な理由で退職する者多く、留袖になって本格的に花柳界に残るのは6人に1人程度ということが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16件)

- ① 岡崎篤行・今村洋一ほか、新潟・古町花街における伝統的景観の継承、日本建築学会大会都市計画部門研究協議会資料、査読無、2011、pp57-60
- ② 檜垣友映・大場修、新潟古町における花街建築の構成と特徴、日本建築学会学術講演梗概集 F-2、査読無、2011、pp.513-514
- ③ 井上えり子・杉村美保、花街を構成する建築物の用途の変遷—戦後の京都五花街、日本建築学会学術講演梗概集 E-2、査読無、2011、pp.73-74
- ④ 井上年和、江戸期における上七軒花街の様相 —上七軒花街と北野社宮仕との関係—、日本建築学会学術講演梗概集 F-2、査読無、2011、pp.561-562
- ⑤ 松井大輔・窪田亜矢ほか、神楽坂花街における歴史的建造物の残存状況と花街建築の外観特性、日本建築学会学術講演梗概集 F-1、査読無、2011、pp.307-308
- ⑥ 澤村明、町家軒高の時代差・東西比較、日本建築学会大会学術講演集 F-2、査読無、2011、pp497-498

[学会発表] (計 2件)

- ① 岡崎篤行、新潟古町の歴史とまちづくり、京都創生推進事業 花街文化シンポジウム、2010.8.29、弘道館(京都市)
- ② 井上年和、花街の発生と展開—上七軒を例に—、京都創生推進事業 花街文化シンポジウム、2010.8.29、弘道館(京都市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡崎 篤行 (OKAZAKI ATSUYUKI)
新潟大学・自然科学系・准教授
研究者番号：10281247

(2) 研究分担者

大場 修 (OBA OSAMU)
京都府立大学・生命環境科学研究科・教授
研究者番号：20137128

澤村 明 (SAWAMURA AKIRA)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：40334643

井上 えり子 (INOUE ERIKO)
京都女子大学・家政学部・准教授
研究者番号：70226736

井上 年和 (INOUE TOSHIKAZU)
(財)建築研究協会・日本建築研究室
・主席研究員
研究者番号：00505688

窪田 亜矢 (KUBOTA AYA)
東京大学・大学院工学系研究科・准教授
研究者番号：30323520

今村 洋一 (IMAMURA YOICHI)
新潟大学・自然科学系・助教
研究者番号：00568404